

カリキュラム

A. 生産管理	129 製造分野におけるDX推進	主な受講者層
管理手法		中堅層 管理者層

コースのねらい	生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革（DX）を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。
----------------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
講義内容	1 製造業におけるDXの理解	(1) DXとは DXとはなにか、デジタイゼーション、デジタライゼーションとの違いやDXの本質とはなにかを理解する。 (2) 製造業におけるDXへの取り組み 製造業において、いま何から始めるべきかを考える。 (3) 製造分野DXの目指す姿 製造分野DXの目指す姿（スマートファクトリ、スマートプロダクト、スマートサービス）について理解する。	1.5
	2 DX実現事例	(1) DX化取り組み事例 DX化に取り組んでいる事例から、実現するための具体的な取り組みを考える。 (2) データ収集・連携・活用方法 DXを成功させるために必要な、正しいデータの収集、分析、活用のための取り組み。 (3) 自社に合ったDXを考える 他人（他社）のDXはそのままは使えない、自社にあったDXとはなにかを考えないと意味がない。	1.5
	3 DX推進の目標設定と解決策	(1) 現状把握とありたい姿を描く DXを考えるとき、まずは現状把握することと、「ありたい姿」を描き共有することの重要性を理解する。 (2) DX化目標の設定 「ありたい姿」に向けて、具体的なDX化目標を設定し、共有する。 (3) DX化への変革シナリオ 「ありたい姿」のDX化目標に向けて、具体的な業務変革シナリオを描き、解決策を検討する。	1.5
	3 DX推進の計画と実行	(1) 社内推進組織の構築と連携 DX推進のためには、トップ直轄の関連全部門参加での社内プロジェクト体制を構築し、進める必要がある。 (2) 見える化とデータ活用 正しいデータの収集とその見える化を行うことで共有化することと、データを活用した取り組み。 (3) DX人材の育成・確保 社にDXを進めるにあたって、どのような人材が必要であるか、またその育成方法を考える。	1.5
演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社現状のDX進捗状況の把握 ・ 自社のDXの目指す姿はなにか（DX化目標） ・ 自社の「あるべき姿」からDX化を設計する。 ・ DX人材の育成計画 		3 上記訓練時間 に含む

合計時間	6.0
------	-----

カリキュラム作成のポイント
製造分野におけるDX推進として、まずは自社内DX（スマートファクトリ）を目指すことを軸とした取り組みを中心にカリキュラムを作成しており、自社内DX推進のための基礎知識を習得いただく。

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア（受講者用）	●機器・ソフトウェア（講師用・その他）
無し	・PC（講師用） OS：Windows10 アプリケーション：Microsoft Office 2016又は2019PowerPoint
●使用するテキスト	●その他
・自作テキスト	

利用事業主に用意を求める機器等	備考
・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード ・マーカー（赤・黒）	